

# 第8回 むのたけじ反戦塾

## 学習会のご案内

— 2024年6月15日（土）13時半 —  
文京区民センター 3C会議室



### 第8回 むのたけじ反戦塾のご案内

「むのたけじ反戦塾」は、一昨年（2022年）12月に第1回を開催して以来、これまで8回の学習会を行ってきました。

むのたけじさんが語り、書き遺された著作を少しずつ読み合わせ、また反戦への思いを語られたむのさんの講演などの映像と一緒に見て、参加した人がその感想を出し合っていくことを手がかりに、それぞれ自分が今、考えていること、とくに戦争の危機に対して思っていることを出し合って、話し合うという形で進めてきました。

むのさんが始めた「たいまつ」学習会や「むのたけじ平和塾」に習い、車座になって、それぞれが知り得た反戦の情報、最近学習・理解したこと、そしてずっと考えていることを出し合っていきます。

今回は、これまでの話し合われたことをもとに、「日本政府に戦争を起こさせないようにするにはどうすれば良いか？」というテーマについてみんなで話し合うことを考えました。

ご都合のつく方は、是非ご参加ください。

### 第8回 むのたけじ反戦塾

日時：2024年6月15日（土）  
13:30～17:00

会場：文京区民センター3C会議室  
（地下鉄春日駅2分・後樂園駅5分）

プログラム：

- ① 参考上映：「むのたけじさんを囲む会」  
（中帰連平和記念館2014年6月11日）  
\*詳しくはこの手元資料3ページ、資料④「今回のむのたけじさんの映像」をご覧ください
- ② むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』  
結章「足元から世界を耕す」前半  
前半 P.159～177
- ③ 参加者、それぞれが今考えていること、  
問題としていることの出し合い・話し合い  
今回は「日本政府に戦争を起こさせないようにするにはどうすれば良いか？」  
についてみんなで考える

むのたけじ 反戦塾

問合せ先：090-4599-5314  
〒338-0006 さいたま市中央区八王子4-7-10-201

### 反戦塾でみんなで考え出し合いたいこと

#### 日本政府に戦争を起こさせないようにするにはどうすれば良いか？

「むのたけじ反戦塾」は、むのたけじさんが遺した映像をみんなで見て、むのさんの著作を毎回少しずつ読み、彼が訴え続けてきた「戦争絶滅へ」「戦争を殺せ」を、今の政治の、社会の状況の中で、どうしたら実現できるかについてこれまで7回の会を行い、話し合ってきました。

はじめは自己紹介を兼ねて、それぞれが考えていること、を出し合う形で始めたひとりひとりの発言も、回を重ねていく中で、それぞれが今、思っていること、「何とかしなければ」と案じていることを出し合うような形になってきました。

そうした中で、「第6回反戦塾」の時の発言に、「元旦の能登地震などで、災害復興支援で動員されている自衛隊員の活躍が報道されているのを見ると、彼らを『違憲の存在だ』って簡単に言えるのかと言う気持ちになる。今の自衛隊と憲法9条についてどう考えているのか、みんなの考えを聞きたい」という発言がありました。

そこで、前回（第7回・2024年3月20日）は、「**憲法と今の自衛隊についてどう考えるのか**」と言う設問をあげ、それぞれ考えてきてもらって、出し合う話し合いにしました。

事前に、参加者のM.T.さんから、自衛隊の実態や自衛隊に対する意識調査の資料をいただいていたこともあり、また参加者の皆さんが「今日は自衛隊の話をするんだ」とあらかじめ考えてきていただいたこともあって、とても活発でな話し合いだったと思います。

そうした発言の中には、「確かに」と納得させられるに加えて「へえ、知らなかった!」と驚かされるものや、「もっと自分でも調べて深めて行きたい」と思う発言がたくさんありました。

「これは若い人に『自衛隊と憲法』について話すときに使えるな」と思う話もありました。

そこで、今回、第8回の「むのたけじ反戦塾」ではさらに話を具体的なものにして行くために、テーマを「**日本政府に戦争を起こさせないようにするにはどうすれば良いか？**」とすることを考えました。

その答えはすでに前回の話し合いの中で、出ているものもあります。

また、考えれば考えるほど、話し合えば話し合うほど、いろんな方法があることに気付くと思うのです。それを、まずは、一人一人出し合って、なるほどと思う、納得のいく話だったら、それをまわりの人とのななしの中に活かしてみましよう。

誰もが、戦争したらいかんと思いつつ、なすすべのないまま、あるいはハラハラしてはいても、黙ってしまっていることが多いのですが、まずは話し合ってみることにしましょう。

（花崎 記）



今回のむのたけじさんの映像

今回取り上げた題材は、中国帰国者連絡会の精神を今に伝える中帰連平和記念館の人たちと意見交換をした時の模様です。話がいろいろなところに飛んでまとまりがないのですが、ひとつのことをお伝えしたく取り上げました。

「日中15年戦争」における戦犯処理のできごとです。「撫順の奇蹟」と言われる、いままでの戦後処理と違うやり方で中国側が対応したということ。すなわち、周恩来は「復習や制裁では憎しみの連鎖は切れない。20年後には解る」という言葉のもとに、1956年の「特別軍事法廷」で起訴された1062人のうち政府・軍高官のわずか45人が無期も死刑もない軽い刑期に処したのです。アジア各地でのB、C級戦犯約1000人が処刑されたのに比べて軽い処分でした。しかも管理所においても自分たちの食事を削って戦犯たちを厚遇したのです。

このことを私は憎しみの連鎖を断ち切って、互いの国が共に繁栄することを願っていると受け止めた。今、ウクライナーロシア戦争でも、パレスチナのガザ侵攻においても、過去の国家間のわだかまりがその根元にあります。戦争をなくすには、こうした国家間のわだかまりを解消することも大切です。その一つのヒントを与えてくれているように思います。とりわけ、今中国にわだかまりがあるような人もいるようです。「日本政府が戦争をおこさせないようにするにはどうすれば良いか」の一つのアプローチ面があるような気がします。（武野大策 記）

**第9回「むのたけじ反戦塾」は8月17日（土）の開催です。**

**日時：2024年8月17日（土）13時半～16時半**  
**会場：文京区民センター 2A 会議室**

8月21日はむのたけじさんの命日でもあります。亡くなって8年目になります。次回は、同じ文京区民センターですが、少し大きめの会場を用意しました。